

ニューヨークの思い出

沖縄ポリテクカレッジの板倉さんからご紹介いただきました佐藤です。彼の話をしだすと紙面が足りなくなりそうなので、さっそく本文に入らせていただきます。

◇

昨年9月のある日、いつものように職場から宿舎に帰り夕食を済ませ、ふと時計に目をやるとまだ8時半少し前。よし、これなら急いで風呂に入れば、録画しておいた映画が見れそうだ。というわけで、急いで入浴を済ませ、歯磨きをしながらテープをセットする。ビデオを見るときはいつもこんな調子だ。少し部屋の明かりを落として、いつもよりボリュームを少し上げて雰囲気をつくる（単身赴任の醍醐味?）。

2時間あまり後、映画も終わり時計は11時を少し回ったところだ。寝るにはまだ早いし、ニュースステーションもそろそろ終わり、NHKでも見るか。リモコンで4チャンネルを選択した途端、澄み切った青空を背景にニューヨーク（以下、N.Y.）マンハッタンの摩天楼の映像が飛び込んできた。が、なんだか様子がおかしい。映画の余韻もあるせいか、状況がなかなか把握できない。よく見ると、ワールドトレードセンター（以下、WTC）のツインタワーの一方から煙が立ち昇っている。瞬間的に、映画「タワーリングインフェルノ」が頭に浮かんだ。火災でもあったのか、などと考えていると、アナウンサーが信じられない事実を伝えている。

「ウソだろー！」

思わず口をついて出た。そのうち目がうるんで映像がかすんでくる。2001年9月11日。あの時は、本当にショックだった。

ここから先は、皆さんご存知のとおりです。

◇

7年ほど前、当時の職場の友人とN.Y.を訪れた。二人とも音楽、特にJAZZやFUSIONが好きだったこと、地

元大館のJAZZ喫茶「MINTON HOUSE」のマスターの奨めもあって、N.Y.行きを決意した。そのときにWTCにも上った。爆破事件からそれほど時間が経っていないこともあって、警備もそこそこ厳しかったように記憶している。屋上の展望台や最上階のお土産屋さんなどの風景が断片的に思い出される。WTC地下街の日本食レストランにもいったなあ。WTCのすぐそばの教会と隣接する墓地公園、昼休みにそこで休息をとるビジネスマン……。

あの空間はもう存在しない。

◇

次回リレーしていただくのは、ポリテクカレッジ浜松の桑田さんです。ポリテクセンター秋田におられた際は、その若さと行動力ですいぶん助けていただきました。それでは、よろしく願います。



在りし日のWTC（1995.9 筆者撮影）